

国立大学教育研究評価委員会（第76回）議事録（案）

1. 日 時 令和7年1月22日（水）10時00分～11時30分

2. 場 所 オンライン会議

3. 出席者

（委 員）浅見委員、アリソン委員、磯委員、井上委員、小関委員、小林委員、玉田委員、土川委員、豊田委員、長坂委員、中根委員、濱中委員、三成委員、山内委員

（事務局）服部機構長、光石理事、西田理事、光田教授、井田教授、鳶田教授、成相評価事業部長、山内国立大学評価室室長、佐藤国立大学評価室室長補佐 外

4. 議 事

（1）第4期中期目標期間の教育研究評価における「実績報告書作成要領」及び「評価作業マニュアル」に関する意見募集への対応について

（2）その他

5. 議事録

（○：委員、●：事務局）

○委員長 定刻となりましたので、第76回国立大学教育研究評価委員会を開催いたします。本日は矢口委員が御欠席で、14名の委員の皆様にご出席いただいております。

それでは、議事に入る前に、まず事務局から配付資料の確認をお願いいたします。

● 事務局より発言させていただきます。ただいま、本日の会議の議事次第を共有させていただいております。本日の議題でございますが、第4期中期目標期間の教育研究評価における「実績報告書作成要領」及び「評価作業マニュアル」に関する意見募集への対応について御協議いただくこととなっております。

この議題を御協議いただくに当たりまして、資料1から資料7及びこの議論の参考になります参考資料1から参考資料7を御用意しているところでございます。

会議の資料の説明は以上でございます。

○委員長 どうもありがとうございます。資料1「国立大学教育研究評価委員会（第75回）議事録（案）」につきましては、事前に各委員に確認いただいておりますので、確

定とさせていただきたいと思います。

#### <議事（１）>

○委員長　　本日は国立大学法人・大学共同利用機関法人の第４期４年目終了時評価の実施に向けて、法人担当者向けの「実績報告書作成要領」（案）、評価者向けの「評価作業マニュアル」（案）に関する意見募集への対応について御審議いただきます。

これらの案につきましては、前回の本委員会において審議の上、決定されたものです。その後、１０月９日から１１月８日の１か月間、意見募集（パブリックコメント）を実施しております。

初めに、今回の意見募集で寄せられた意見につきまして、主な論点と方向性の案を御審議いただきたいと思います。主な論点と方向性の案につきましては、本委員会のワーキンググループで審議されたものです。

それでは、ワーキンググループ主査の豊田副委員長より御説明をお願いいたします。

○ワーキンググループ主査　それでは、ワーキンググループで審議をさせていただきました、意見対応に当たっての主な論点と方向性の案につきまして説明いたします。

今回の意見募集では合計１９６件の御意見が寄せられました。ワーキンググループでは、いただいた御意見につきまして、主な論点を整理いたしました。その結果、次の４点を主な論点としております。

具体的には、実績報告書に関するものとして、達成状況報告書の頁数等上限に関する意見への対応、現況調査表の頁数等上限に関する意見への対応、また、達成状況評価方法に関するものとして、「優れた点」及び「特色ある点」の点数に関する意見への対応、「改善を要する点」の点数に関する意見への対応、この４点となっております。

審議の結果、達成状況報告書や現況調査表の頁数については、上限を緩和する内容いたしました。また、「改善を要する点」の点数については、その内容に応じて減算としておりましたが、減算する段階をお示しすることといたしました。

具体的な内容につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

●　事務局より御説明をさせていただきます。まず、資料２－１「「実績報告書作成要領」（案）及び「評価作業マニュアル」に関する意見募集の結果について（概要）」と資料２－２「「実績報告書作成要領」（案）及び「評価作業マニュアル」（案）に関する意見対応に当たっての主な論点と方向性について（案）」を使って御説明をさせていただきます。

ます。

それでは、資料２－１をまず共有させていただいております。「実績報告書作成要領」（案）及び「評価作業マニュアル」（案）に関する意見募集の結果について（概要）という資料としてまとめさせていただきました。

意見募集の期間につきましては、令和６年１０月９日から１ヶ月の期間、当機構ウェブサイト上で御意見を募集いたしました。

「２．意見総数」 先ほど豊田委員から御紹介いただきましたが、合計１９６件、作成要領については１３７件、評価作業マニュアルについては５９件という御意見でございました。

まずこの１９６件につきまして、全件は御覧いただく時間がございませんので、少しいただいた御意見を分類分けいたしまして、こういう御意見を頂戴したというところを御紹介させていただきます。

「３．主な意見の内容」というところでございます。（１）、実績報告書の作成に関する御意見としまして、①達成状況報告書の頁数の上限に関するものの御意見をいただいております。

まず１つ目の・、これも例示をさせていただいておりますが、全部お読みする時間はないので、少し内容を簡単に御説明させていただきます。

１つ目の・でございますが、中段、「しかしながら」以降のところに、現行の案、達成状況報告書の様式には、１事項につき最大３００文字、１中期計画については１頁という制限があるけれど、達成度の内容をこれでは十分に記載することが難しいと考えられるという御意見です。頁数の上限は少し増やすという検討をしてはどうか。

次の・でございます。各中期目標の記載項目について、㊦から㊨、この要素を記載していただくとお願いしておりますが、最大１頁という分量については少ないと感じる。その次の行、優れた実績や効果が十分には記載できない。評価指標の多い中期計画もあることから、もう少し分量を増やして、ここは２頁としてはどうかという御意見でございます。

次の・です。文字数が最大３００文字という最大の条件がございますが、３００文字という点では、ちょっとくだりのところです。形式的にこの３００文字を超えないためのチェックというところが、手間がかかる。これについては、おおむねというような、文字について最大ではなく、少し融通を利かせてはどうかという御意見でございます。

進めさせていただきます。次の頁の資料共有をお願いします。②、現況調査表の頁数

等、今度は現況調査表で上限に関する御意見をいただいております。

・に沿って少し簡単に御説明いたします。1つ目の・でございます。教育の水準の分析については最大2頁、研究の水準の分析については最大1頁で記載するとある。各部局、学部ですとか研究科ですとか、教員所属組織がこの単位になるところですが、様々な教育研究活動をしておりますので、公表すべき成果が多々あると。これでは収まらない、記載するのは困難ということで、頁数は目安であるというような、運用面について融通をという御意見です。

その次の・でございます。教育の水準が最大2頁で、研究の水準は最大1頁となっているけれど、研究の頁数については、同じく分量を増やして2頁とすべきではないかというのが御意見としてございました。

その次の・でございます。次は、先ほどは本体でしたけれど、補足の資料、図表の頁数にも限定をかけております。図表は教育が2頁、研究が1頁、これは根拠資料等で図やグラフを示していただきますけれど、多くのキャパシティーを使うことから、教育は4頁、研究は2頁のように分量を増やすべきではないかという御意見を頂戴いたしました。

その次でございます。現況調査表の様式と記載に当たって、留意事項、今回本文は1,200文字といたしましたが、第3期は1,600文字記載が可能であったので、400文字減、これも書くべき内容が多いということで、この減というのはどういう理由によるものか。できれば同じく文字数を増やす、前期と同様にすべきではないかという御意見をいただいております。

次のカテゴリーでございます。③達成状況報告書の中期計画の記載方法に関するもの、これは◆でお示しをしております。中期計画の記載方法に関する御意見。・が1つございますが、Eの特記事項、ここはいわゆる優れた実績ですとか成果を説明していただくところでございますが、これに係る特記事項を記載することができますとあるけれども、この「係る」というところの程度がどれぐらいの関連性を示すのか、その次にEというところがございますが、Eは評価指標に関する優れた事項をお書きいただく項目、Fは中期計画には記載がありますが評価指標がない部分について、その実施の確認と優れた点をお書きいただくという状況ですけれど、EとF、どちらにも書き得る場合があるけれども、ここについてどのように記載をするのかという御質問でございます。

その次の◆でございます。達成状況報告書の評価指標の達成状況について、2行目のくだりのところでございます。1つの評価指標に定性的なものと定量的な両方の指標が含ま

れている場合には、どのように記載すればよいかというような御質問をいただいております。

説明を進めさせていただきます。④現況調査表及び研究業績説明書の記載方法に関するものをカテゴリーにしております。◆でございます。現況調査表の記載方法に関する御意見としまして、研究の現況調査表における優れた取組及び特徴的な取組と、研究業績説明書、水準判定をするために、研究業績を各法人から頂戴いたしますが、この研究業績に計上したところと、現況調査表の優れた取組については重複をさせないようにという指示があるけれども、私どもからお願いをしております。この質問者様は、大規模な研究プロジェクトを運営していて、それぞれの研究業績と、研究の現況調査表に書く優れた点というところに当然重複が出てくるような状況である。そのため、重複をせずに記載することは難しいので、記載内容の重複を認めてほしいという御意見を頂戴しております。

その下の◆でございます。研究業績説明書の記載方法に関する御意見、スポーツの記録が優れた実績としてお書きいただけるとしておりますけれども、研究者本人の記録によるものに限定されるのか、それとも指導した方、そういう方が優れた成果を挙げられたときも、ここも優れた成果としてよいのではないかという御意見でございます。

説明を進めさせていただきます。（２）のところでございます。達成状況評価の評価方法に関する御意見、①「優れた点（評価指標以外）」及び「特色ある点」による加算に関するものの御意見でございます。優れた点、特色ある点の抽出件数を、上限２件と今しているところですが、２件を３件としてはどうかという御意見です。

御意見の趣旨としましては、３段目にございます。中期計画に閾値を設けて段階判定いたしますけれども、この判断が０．５点の刻みとなっているけれども、優れた点は２つ取ったとしても０．４の加算にしかないということをもちまして、優れた点を２つ評価されたとしても１つ評価が上がらないのは抽出する意義を失わせるのではないかと御意見でございます。

その次の・でございます。評価作業マニュアルに示されておる中期計画の段階判定において、優れた点として１個当たり０．２、特色ある点を０．１と定めた根拠、加算点についてどのような計算で決まったのかを示してほしいという御意見でございます。

続いて②でございます。「改善を要する点（評価指標以外）」による減算に関するもの、ここも意見を多数いただいております。・の次に書かれておりますところとしましては、中期計画の段階判定において、「改善を要する点」が指摘されていた

場合に、その内容に応じた減算を含めて判断すると書いてあるけれど、具体的な減算の数字が示されていないのは、総合的な判断によると意図するものかということです。具体的に示せなくても、減算する点数の範囲等については明記したほうがよいのではないかと思います。御意見を頂戴しております。

次の頁に進んでください。3つ例示として書かせていただいておりますけれど、この3つも同様に、いわゆる減算について具体的に示すべきであるという内容を頂戴しております。ここは説明を割愛させていただきます。

続きまして、③判定の流れや基準等に関するものということで、例示を2つ挙げさせていただきます。

「イ 中期計画ごとの達成状況の分析・判定」の記載、これが15頁にありますけれど、㉔から㉖というような各項目であります。ほかの頁との対応関係が分かりにくい、さらに、この関係を図示したものがありますけれど、ここも少し分かりにくいので、見る方に、利用者、各法人の方に分かりやすい表記としてはどうかという御意見をいただいております。

その次の・でございます。1つの指標が複数の目標値からなるような場合につきまして、2つある場合、片方の実績値が達成水準を大きく上回るけれど、もう片方が達成水準を満たす、前者がiii、後者がiiと思われるような、これが2つ一緒にあるような場合、この場合のような様々なパターンが考えられるが、こういう場合の算定基準を示してほしいという御意見でございます。

続きまして、（3）現況分析及び研究業績水準判定の評価方法に関する御意見をいただいております。

①教育研究活動に関するデータの取扱いに関するもの。・で例示をお示ししております。重要指標と分析指標は評価者が活用するとされているけれど、どのように評価に活用されるのかが不明であるという御意見でございます。実際に加点や減点の要素となった際は、評価結果とともに内訳を示していただきたいという御意見でございます。

5頁に進ませていただきます。②判定基準に関するものとしまして、現況分析における段階判定において抽出される「優れた点」「特色ある点」の個数が合計2個を上限とするとしているけれども、これにより適切な段階判定ができるのかという御質問でございます。

続きまして、（4）現況分析基本データに関する御意見でございます。

①データの定義に関するもの。ここは私ども、データ定義集でなるべく誤解のないように分子、分母、どのような数字をいただいていくかを書かせていただきましたが、その言葉の定義、いただいたのは修業年限×1.5年の間に学位を取得した方という表現については、入学時期を修業年限×1.5年前に入学のようにきっちり定義として示さないと紛れがあるのではないか、適切ではないのではないかという御指摘をいただいております。

次、②システムやスケジュールに関するもの。現況分析基本データに用いるデータの詳細、どのような作業スケジュールで進むのか、データの集め方、評価実施後にはこのデータを公表するとお話をさせていただいておりますけれど、これがどのようにしていくのかというのを、令和7年3月に説明会で説明をしてほしいという内容でございます。

(5)でございます。その他のカテゴリーとしておりますものとして、①教員の定義に関するもの。教員の定義に関するものは、具体的にどのように法人が定義を選択するのか。具体的なスケジュール等について、ここも7年3月の法人向け説明会で説明をという御意見でございます。

②現況分析結果の活用に関するもの。現況分析、現況調査表が中期目標の達成状況の分析に活用されることになっているが、具体的にどのように活用されるのか。実績報告書作成要領または評価作業マニュアルに明示をしてほしいという御意見でございます。

続いて、6頁を御覧ください。③一法人複数大学の現況調査表等の作成方法というところでございます。

・が1個でございますが、一法人が2大学を設置しておる場合で、それぞれの大学の学部・研究科が現況分析の単位になっていきます際に、大学名と学部名というのを表紙に記載して整理をしてもよいかという内容の御質問でございます。

④様式の体裁、用語の統一、誤記等に関するところで、ここについては25件、誤記等に関するものも含まれております。確認していたつもりでございましたが、一部誤記ですとか少々表記の揺れ等がございまして、確認いただいた法人の皆様から御指摘を頂戴したというのが、ここでございます。一部状況を修正しているところも、これについてはございます。

上記分類以外のものというのが、⑤でございます。◇を書かせていただいておりますが、「意見・要望」と整理されるようなものとしまして、ここは後半のところでございます。令和4年度については、新型コロナウイルスの影響があったので、この新型コロナウイルスの影響によって取組を十分に実施できていないということをもちまして、この影響

を配慮してもらいたいという御意見でございます。

その次の・、現況分析基本データ、活動に関する報告書等の提出期限はいつになるか。7年度の実績につきまして、8年度の非常に早い時期に期限を切りますと集計が間に合わない可能性があるので、この点について配慮をという御意見でございます。

その他、最後の◇でございます。個別の質問に分類されるようなものもいただいておりますのでございます。

簡単ではございますが、このような分類で196件の御意見、御質問等をいただいておりますのでございます。

続きまして、資料2-2「「実績報告書作成要領」（案）及び「評価作業マニュアル」（案）に関する意見対応に当たっての主な論点と方向性について（案）」に移らせていただきます。先ほどいただいた御意見の中から、本日の委員会で御審議、御判断をいただきたい評価作業マニュアル、実績報告書作成要領の内容に変更を与える可能性のある内容を4点、まずは御説明をさせていただきます。資料2-2を、今、資料共有をさせていただきます。

意見対応に当たっての主な論点というところが、1.でございます。主な論点は、以下の4項目に整理されるとさせていただきました。

【実績報告書に関するもの】としまして、「達成状況報告書の頁数等上限に関する意見への対応」「現況調査表の頁数等上限に関する御意見への対応」。2つ目の【】でございます。【達成状況評価の評価方法に関するもの】。具体には、「「優れた点」及び「特色ある点」の点数に関する御意見への対応」「「改善を要する点」の点数に関する御意見への対応」でございます。

その下、「2. 各論点に関する意見とその対応について」というところで、(1)、①等、具体的な御意見を書かせていただいておりますが、これは先ほどの資料2-1で御紹介した御意見と重複しますので、ここでは御説明を割愛させていただきます。

2頁の御説明をさせていただきます。

まず、達成状況報告書の頁数の上限に関するところでございます。これは10月に一度、本会議にお示しをした記載量に関して変更をするかどうかという御審議をいただいたわけでございますが、その経緯といたしましては、もともと今期、国立大学法人評価委員会から要請を受けまして、教育研究の評価を当機構で実施をしているところでございます。この留意事項をいただきました中に、評価作業に係る負担の軽減という留意事項がご



ございましたので、まず検討の段階から、各法人に提出いただく資料につきましては、分量を減らす、これによって負担を軽減してはどうかというのを、まず主題に置いて検討を進めてまいりました。

達成状況に関する報告書につきましては、資料共有をさせていただきました青枠で囲っております◎から◎というところにつきまして、1頁以内で、文字数としては最大300文字で各項目をお書きいただけるという判断の下に一度お示しをしたところでございますが、今回、記載量の増について御意見を頂戴いたしましたので、事務局で検討し、ワーキンググループにさらに検討をお願いしたところでございます。

課題としましては、今回お示しをするところは、口頭でもう少し説明させていただきますと、事務局の検討に当たりまして、もう少し大きな点として検討いたしましたのが、前期におきましては、分量について、何頁以内という記載がございましたけれども、その分量を超過した場合には、超過した分量をどうするのかという記載が実はございませんでした。ただ、今期、もう既に要領の中に追記した部分といたしまして、上限を超えた部分につきましては、評価の対象としないという旨を明記しているところでございます。この点と、先ほど少し御紹介いたしました、非常に優れた実績が多いので書き切れないののではないかという点を考慮しまして、今回、ワーキンググループの議論を経て当会へお示しする内容といたしましては、A.「中期計画の実施状況の頁数」でございますが、当初お示しをしておりまして1つの中期計画ごとに最大1頁という内容から、今回、1つの中期計画ごとに最大2頁という案としてはどうかという点と併せまして、「1つの内容（事項）に記載する文字数」でございますが、最大300文字から最大400文字ということで、最大記載できる分量、1項目に関する記載の文字数も増やしてはどうかというところでございます。

続きまして、2点目の御説明をさせていただきます。3頁をお願いします。

「現況調査表の頁数等上限に関するもの」でございます。ここの（意見、要望の例）につきましては、先ほどと同様のものを掲載しておりますので、説明は割愛させていただきます。

《意見対応表の方向性》について、ここにつきましても、達成状況報告書と同じく負担軽減の観点から、いただく帳票については分量を減らしていくという観点で当初から検討を始めておりました。

次の頁は様式です。今、表紙と、教育目的と特徴、具体には、教育と研究の水準の分析

を行うに当たりまして、特記事項を記載していただく頁としまして、教育は2頁、研究は1頁、表については、教育2頁、研究1頁として御提案をさせていただいておりました。

先ほどの達成状況報告書の御説明と同様詳しい説明になりますけれども、ここも記載の文字数につきまして、今回、上限を超えた部分については評価の対象としないと明記をしておるところでございますので、この頁数では優れた成果がたくさんあるけれども、書き切れないのではないかという御意見をいただきまして、改めて検討し、ワーキンググループにお諮りし、本日、当委員会にお諮りする内容としましては、《意見対応表の方向性》ということでA.に記載させていただいております。「水準の分析（特記事項等を記載）」の頁数につきまして、教育の場合、最大2頁、この2頁の分量は1頁辺り1,200文字でございましたので、2,400文字としておりましたところから、本日の案としたしましては最大3頁、3,600文字という内容でいかがかというところでございます。

研究につきましては最大1頁、1,200文字であったところを最大2頁、それぞれ最大値につきましては、1頁増加させてはという御意見とさせていただいております。

次の頁の資料共有をお願いします。4頁の上、「B.別添（図表等）」というところがございます。御意見の中には、図表を増やすべきだという御意見がございましたが、今回、全体としてお願いしておりますのは、本文に根拠、いわゆるアウトプット、アウトカム含めて記載をいただきたいというお願いをしているところですので、あくまで図表は補足であるという考えの下に、本文、本体のほうの分量については増という案とさせていただきましたが、別添の図表等につきましては、当初案のまま2頁、1頁ではいかがでしょうかという案とさせていただいております。

次の説明に移らせていただきます。5頁を資料共有をお願いします。「（2）達成状況評価の評価方法に関する御意見」ということで、①「優れた点（評価指標以外）」及び「特色ある点」による加算に関するもの」ということで、ここも御意見、御要望の内容は先ほどと同様でございますので説明は割愛させていただきまして、少し共有を下にお願いします。

【意見対応表の方向性】ということで、本件については、文部科学省国立大学法人評価委員会の「評価指標の達成状況に重きを置いた評価」という方針に基づいているところから、原案どおりとしてはどうかという案とさせていただいております。優れた点と特色ある点による加算については、評価指標の判定結果、3段階の判定結果を平均化して平均点

を取った後に加算するものですので、その効果は十分に大きいのではないかとというのが考え方でございます。

少し資料共有を下にして、図全体を資料共有に入れてください。図示をさせていただいておりますが、1つの中期計画に複数の評価指標を持っていらっしゃる法人、中期計画が多いということで、3つの場合を図示させていただいております。例えば評価指標がA、B、Cがあり、Aはiii（3）、Bがii（2）、Cがii（2）という判定をされた場合に、まずこの評価指標の素点の平均をするというところで行きますと、2.33という平均点が出てまいります。評価指標の設定のない事項から、ここでは一つ優れた点が選ばれた場合という例示をしておりますが、この2.33に0.2を加算することになりますので、結果としましては、2.53になるということをもちまして、iii（3）を取った効果としましては、全部ii（2）であった場合の2という平均点を2.33に上げる効果、さらに加算につきましては、直接足されるので、直接0.2を加算する効果となりますので、十分この加算の効果は大きいのではないかと。

改めて繰り返しになりますが、評価指標の達成状況に重きを置くというところは本会議でも御懸念いただいておりますので、ここの加算に関する点数及び抽出する個数については、現行のままでどうかという今回の案でございます。

6頁の資料共有をお願いします。6頁につきましては、優れた点という抽出のところについて書かせていただいているところでございますが、1つ目の◆でございます。優れた点というのは2種類あるわけでございますが、先ほど少し御説明をさせていただきましたが、「評価指標の達成状況によって抽出される場合」と「評価指標以外の事項から抽出される場合」がございます。

「評価指標の達成状況において抽出される場合」といいますのは、評価指標がiii（3）という評価をされた場合には、当然これは優れた成果であるということをもちまして、優れた内容として当機構が評価する評価書の中に記載をいたしますが、これによって先ほど御説明した加算がされることはございません。平均点を押し上げる効果があるというのみでございます。

それとは異なりまして、「評価指標の設定がない事項」において、優れた実績・成果が認められる場合につきましては、優れた点として抽出をされまして、この優れた点につきましては、平均点に1つ当たり0.2が加算される。先ほどの図の御説明の繰り返しとなっておりますが、この点が異なっております。

この点につきましては、本日、御了承をこの内容でいただきましたら、先ほど3月の説明会に言及いたしましたが、こういう機会を捉えて、各法人の方に正確に御説明をしたいと思っているところでございまして。最後の◆でございまして。本日の最後に簡単に御説明いたしますが、正確にお伝えするためのQ&Aを作成して御説明させていただきたいと思っているところでございます。

次に説明を移らせていただきます。「改善を要する点（評価指標以外）」による減算に関するもの」、ここも（意見・要望の例）ということで書かせていただいておりますが、これも先ほどお示しをしたものと同一でございまして、説明は割愛させていただきます。

7頁でございまして。【意見対応表の方向性】としまして、改善を要する点によって減算される点数については、優れた点及び特色ある点と同様に、具体的に示すよう求める意見が多くなっているということをもちまして、改善を要する点については、法人にとって不利益となることから、内容に応じて減算することが適切と考えられるため、内容に応じて減算の段階を設けてはどうかという対応案とさせていただいております。

具体には、「内容に応じて減算」というところから、「内容に応じて、以下のとおり段階的に減算」という①、②の2段階とさせていただいております。設定した評価指標等、達成が見込まれない場合には0.2点の減点、②、例えば中期計画にこういう事項を実施すると書かれているという事実がございまして、全く取り組んでいないというような結果となった場合には、重大な内容とみなしまして、0.5点の減点。0.5点という減点をいたしますと中期計画の評価というのが確実に一段階下がるという考え方から、0.5点というところを置かせていただいたところでございます。

申し訳ございません。非常に長い説明となりました。196件いただいた内容の説明と論点、変更を及ぼし得る説明をさせていただきました。

以上でございます。

○委員長 どうもありがとうございました。量が多いので分かりにくいところもあるかもしれませんが、聞いていた限りでは、簡潔に分かりやすく説明していただいたと思います。

それでは、実績報告書作成要領に関する意見募集への対応につきまして、ワーキングで検討したわけでありまして、この修正案あるいはその修正の意見、それから、そのままだよいかということを含めまして、御審議をいただきたいと思います。

皆さんのほうから御意見や御質問がありましたらお願いいたします。

質問につきましては、人数も多くないので、自由に発言していただいて結構だと思いますので、その場で発言していただければと思います。いかがでしょうか。

特にございませんか。

○ すいません、質問させてください。

○委員長 どうぞ。

○ 先ほど御説明いただいた資料2-2の5頁で、評価指標、青字で平均値2.33と。理解しておきたいんですが、トータルの点が2点か3点かといったときに2.33だと3にはならないけれども、0.2足することは十分な加点という御説明だったと思うんですが。素点というのがどういうふうに使われるのか。十分に補正はなされていると思いますということだったんですけれども、質問者の意図は2と3では大違いと。ランクが違くと大違いのところにあまり意味をなさないという質問であったと思うんですけれども、これについて御説明いただければと思います。

○委員長 事務局のほうからよろしくお願いします。

● すいません、事務局から発言をさせていただきます。

私の御説明の内容がうまくなかったとしたら大変申し訳ございません。ここで御説明をさせていただきかけた内容としましては、資料2-2の5頁の資料共有、少し上も入ります。

まず、今回評価を実施していただきます前提として、中期計画に評価指標を置くという法律上のルールとなりましたので、必ず中期計画には評価指標が設定をされております。この評価指標の評価に重きを置くというところも、この委員会でも御了承いただいておりますので、この点については、あまり大きな影響を与えない、大き過ぎないように調整をしたいと思って、この加点の内容というのを設定したところでございます。

今回お示しをさせていただいたところにつきましては、具体には、3つ評価指標がありまして、3つのうち1つがiii(3)となったときの素点を上昇させる効果が0.33というiii(3)の効果と、この評価指標以外に加算をされるというところが0.2、この図示は0.2とさせていただいておりますが、優れた点がもう一つ選ばれれば0.4になる。ですので、2.33に対して0.4が足されるケースもあろうかと思っております。

この平均点を上げる効果、iii(3)は平均点を上げる効果で、評価を上にする効果があるんですけれども、ここに直接0.2を足すという効果で十分大きいのではないかという

御説明を申し上げたところでございます。

○委員長　　どうもありがとうございました。いかがでしょうか。

○　理解はしたんですが、多分質問があった人は、例えばA、B、Cやったときにiii（3）、iii（3）、ii（2）、ちょっと計算してみたんですけども、そうすると2.7になって、それに対して、加点が2つあった場合、3つあった場合といったときには1ランク上がる場合もあっていいはずだということだったんだと思うんですが、それについてどうにも上がらないように、わざと設定したということですかね。

そうした場合には、加点を入れた理由がちょっとよく分からなくなってしまうんですけども、それが最初質問だったんです。だけど、素点として、どこかで大学の評価で見られるところ、つまり、最終判定以外の素点が表に出て、素点としても評価対象になる部分があるから入れたということですよというんですかというのが質問だったんですが、伝わっていますでしょうか。

●　事務局から発言させていただいてよろしいでしょうか。

○委員長　　お願いします。

●　今の御質問に対しては、加点を入れたのはそういう理由でございます。

もう一つ、申し訳ございません、先ほど資料2－2だけで御説明をさせていただきましたが、資料4－2「評価作業マニュアル」（修正案）、資料共有できますか、21頁です。これも内容の多い表でございます。先ほどの表も含めて、今回マニュアルを一部修正するところでございます。

一番上のところが評価指標iii（3）、ii（2）、i（1）というのがございまして、その下の平均点を取った上でさらに加点をして中期計画の閾値を設けまして、5段階の段階判定をいたします。先ほど、2.33に0.2加点をするという例をお示したところでございますが、その例示の場合でございますと、中期計画の5段階の閾値が、Ⅲが2.0以上、Ⅳが2.4以上、Ⅴが2.8以上というところでございますと、先ほどの例示でいきますと、2.33に0.2の加算がありますと、Ⅳには当然上がるという御説明をさせていただいたかったのですが、申し訳ございません、資料を全て御覧いただくずに口頭で中途半端な説明になりましたので。

○　分かりました。そうすると、質問の人は、その加点のものを、2つを3つにしてくれと言っていたけれども、そういう意味では、数値計算上の話ではなく、心情的なことと言っているだけで、2でも十分に、例えば最終的な判定結果が変わる場合もあるということですね。分かりました。安心しました。

● 事務局の考えとしては、大変申し訳ございませんでした。委員から御指摘をいただいたとおりの考え方でございます。

○ ありがとうございます。理解しました。

○委員長 どうもありがとうございました。ほかにございますか。

○ よろしいでしょうか。

○委員長 はい、どうぞ。

○ 既に御教示いただいているような気もするんですが、改めてちょっと確認の意味で質問させてください。

今回の中期目標中期計画期間で一番悩ましいのはやっぱりコロナ禍というのがありますよね。これは多分、状況はどの大学でも同じだと思うんですけども、評価のときのスタンスを少し確認したいという意味で発言しております。

多分いろいろなことが計画どおりにいかなかったということは、多分皆さんすごく多かったと思うんですけども、でも、代わりに何かをやったということで、特にその計画変更というのはマイナス要素にはならないというふうに理解していてよろしいですかね。

○委員長 いかがでしょうか、今の御質問に対して。

● 事務局より発言をさせていただきます。ご指摘のコロナの影響、どういう事項が中期目標・中期計画に設定をされており、どのような影響があるのかということと、計画はできなかったけれども、代替りのことをおやりになった場合にという御指摘でございましたが、少し具体的に、いわゆるどのような内容かというのを承ってみないと、それがよいのか悪いのか、釣り合っているのかどうかというところの判断がなかなか正直、今、事務局で考えるところでは難しいのではないかと考えているところではございますので、そういう御事情があるところは、自己評価書をお出しいただくときに我々にお伝えをいただく、このような流れにできればと今思っておるところではございます。

このような内容で、一旦お答えとしてはよろしいでしょうか。

● すいません、前期の評価のときもそのようにしたんですが、コロナですとか地震ですとか、いかんともしがたいような状況を原因とするものについては、それだけをもって一番悪い評価にするとか、そういうことのないような配慮ということをしたんですが、今回もそういうことになると思います、というのでお答えになっていますでしょうか。

○ ありがとうございます。地震とかと違って、今回はもう全国一律で、恐らく皆さん相当苦労されているので、必ずこの記述が出てくると思うんです。ですから、我々として

も、ある程度一定の共通理解は必要かなと思って、あえてお話し申し上げました。

分かりました。是々非々で、要するに柔軟に対応することによってよろしいですね。

● すいません、コロナの関係について申し上げると、3期のときにはかなりの期間、その期間であったので、今、説明ありましたとおり、配慮するという形を取りました。

ですが、今回の中期目標期間でいうと、令和5年の5月にコロナが5類認定されて状況が変わってございます。なので、大きな影響があったのは多分1年半ということになろうかと思っておりますので、4年の分の評価を行うに当たって、あるいは、達成では6年までの見込みも含めて評価を行うということになりますので、一概に全体をもって、コロナを理由だけで判断をするというのはかなり難しい部分もあろうかと思っております。

当然ですが、海外留学を学生にさせるといったところの最初の年度が低いというのは仕方がない部分があると思うんですけども、その部分の配慮はするとしても、全期間にわたっての大きな配慮というのはなかなか難しいというのが実情だろうと思っております。

ですので、最初に事務方のほうから御説明申し上げたように、状況に応じてという判断になろうかと思われます。

○ 分かりました。ありがとうございます。

○委員長 どうもありがとうございました。難しいところではありますけれども、今のような格好になるんだろうなと思っております。

ほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、いろいろな御意見を承りまして、大変ありがとうございました。それでは、原案どおり主な論点と方向性を、最初に説明したような形で確定いたしたいと思っております。どうもありがとうございます。

それでは、次に進みたいと思っております。

次は、実績報告書作成要領案に寄せられました意見のうち、先ほどの主な論点に関わらない意見というのがありますので、それについて御審議をいただきたいと思っております。

この対応につきましても、本委員会のワーキンググループで審議の上、意見対応案を作成しておりますので、それについてワーキンググループ主査より御説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○ワーキンググループ主査 それでは、ワーキンググループで策定しました実績報告書作成要領に関する意見募集への対応案について説明させていただきます。

意見募集の結果、実績報告書作成要領につきましては、主な論点としていた達成状況報



告書や現況調査票の頁数上限に関する御意見以外にも、中期計画や評価指標の記載方法、現況分析基本データの定義など、様々な御意見をいただいております。

審議の結果、実績報告書作成要領を一部修正するとともに、詳細な内容については、機構が別途作成する法人担当者向けのQ & Aに掲載することとしております。

それでは、具体的な内容につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

● 事務局より御説明をさせていただきます。資料3-1から資料3-3を用いまして、まず、実績報告書作成要領に関する意見対応表（案）という内容を御説明させていただきたいと思います。

ただ、196件の御意見を頂戴しておりまして、この資料3-1「「実績報告書作成要領」（案）に関する意見対応表（案）」につきましては、137件の御意見を頂戴しております。この137件に対して御意見の内容と回答案を書かせていただいているところでございますので、時間の都合上、この全件をやはり御説明はできないというところで、幾つかの御意見を御紹介させていただくのにとどめさせていただきたいと思っております。

まず、今、資料共有をさせていただいております資料3-1のNo.1でございます。御意見については、先ほど内容については御説明をしておりますので、この回答案、先ほど御了承いただきました分量について変更をする、ちょっと先打ちでございましたが、案の内容に合わせてこの内容とさせていただきます。

ここから10件、同じ内容につきましては同様なお答えを記入させていただいているところでございます。少し何件かというところを先ほど申し上げさせていただきました。

次に、No.32、10頁を共有お願いします。達成状況報告書の評価指標の達成状況については、定量的な評価指標と定性的な評価指標で記載様式が分かれているが、1つの評価指標に定性と定量的の両方の指標が含まれている場合はどうかと、先ほど御紹介させていただいた内容でございます。

お答えとしましては、全体として定量的な評価指標と判断される場合には、定性的な事項は、定量的な評価指標の内容を各項目と同一のところにお書きいただきたい。逆に、全体として定量と定性が混在しておっても、全体として定性と判断されるものについては、全体は定性だけれども、中の数値のチェックのところについては、定性的な評価指標に記載する事項を記載していただく欄に記載していただきたいというところをお示ししております。詳しくは、これについてはQ & Aに改めてお示しさせていただいた上で、3月の説明会で改めて御説明させていただきたいと思っております。

次に No. 94、28頁の資料共有をお願いします。現況分析基本データ、教員数のところでございます。意見のところでございますが、教員数の定義について、法人が選択することとなっているけれども、具体的にどのように法人が定義を選択するのかを示してもらいたいというところでございます。具体的なスケジュールとして、当機構から照会を各法人に行うのか、もしくは、令和8年5月末に各法人が現況分析基本データを提出する際に定義の選択も合わせて行うのか等、今後どうなるのかを令和7年3月の説明会でこういう段取りも説明をしてもらいたいという御意見でございます。

回答案としましては、教員数の定義については、Q&Aに代表的なパターン、私どもがまず考えられる代表的なパターンを記載しておりますので、このパターンに基づく記載例を参考としていただきたいという回答とさせていただきます。具体的には、やはり3月の担当者説明会で御説明をさせていただくという内容でございます。

先ほど4点御検討いただきました内容を変え得るものから、非常に要望的なところまでいただいておりますというのが137件の内容でございます。

続きまして、資料3-2「「実績報告書作成要領」（修正案）」の共有をお願いします。簡単ではございますが、作成要領の変更点について御説明させていただきます。

5頁の資料共有をお願いします。先ほど別資料でも御覧いただきました内容でございます。左の青枠ですけれども、中期計画の実施状況につきまして、1つの中期計画ごとに、先ほどの御相談申し上げました最大2頁というところと、1つの内容に記載する文字数は最大400文字と先ほど御了承いただきましたので、この変更となるというところでございます。

次、8頁の資料共有をお願いします。下のほう、赤文字でお示ししておるところでございますが、達成が見込まれない場合の減点、1個当たり0.2点、全く取り組んでいないなどの重大な内容については、1個当たり0.5点の減点である旨を記載させていただいております。

次、10頁、資料共有をお願いします。「達成状況報告書の様式と記載に当たっての留意事項」です。(2)①になりますが、ここは少し文言の調整をいたしましたのと、文字数最大400文字、1つの中期計画ごとに最大2頁、赤文字になっているところでございます。この修正を要領上でさせていただきます。

次、11頁、資料共有をお願いします。下半分、「「学部・研究科等の現況調査表」の記載イメージ」、これは教育の水準を例に出しているところでございますが、表の中、赤

文字、教育の特記事項をいただく頁は、教育は最大3頁、研究は最大2頁と修正をしております。

次、14頁の共有をお願いします。現況調査表の留意事項でございます。真ん中の(2)を共有してください。ここも先ほど分量の変更を御審議いただきましたので、頁数の上限について、教育水準の分析においては最大3頁という修正をさせていただいております。

次、17頁の共有をお願いします。「現況調査表の様式と記載に当たっての留意事項」でございます。先ほどのものが教育、今度が研究でございますが、17頁中段、研究の水準の分析においては、最大限2頁という表記に変えているところでございます。

続きまして次の資料、資料3-3の共有をお願いします。「現況分析基本データに用いるデータについて」というデータの定義でございます。ここにつきましても、一部、ここは申し訳ございません、説明を割愛させていただきますが、先ほど1.5年の定義等、正確な書き方にならないと紛れが生じるという御指摘をいただいたところもございます。こういう点につきまして、なるべく正確な表記になるように改めたというところが、各法人から現況分析をいただくに当たって、いただくデータの定義集、ここについても正確な表現になるように一部修正をさせていただいております。

実績報告書の作成要領についての意見対応、個別の内容についての対応の御説明は以上でございます。

○委員長 どうもありがとうございました。今のような御説明をいただきました。資料3-1から3-3を主とした内容として説明していただきました。実績報告書作成要領に関する意見対応につきまして、御審議をお願いしたいと思います。事務局からの説明も含めまして、御意見、御質問がありましたらお願いいたします。

いかがでしょうか。よろしいですか。

○委員長 特にございませんようでしたら、原案どおり実績報告書作成要領に関する意見対応表を確定するということにしたいと思います。また、実績報告書作成要領と現況分析基本データに用いるデータを修正するということにしたいと思います。

なお、字句修正等を含め、今後修正が必要な場合には私に御一任いただきますようお願いいたします。これは、先ほどの問題についても同じような形で、必要があれば修正したいと思いますので、御一任をお願いしたいと思います。

○委員長 それでは、次に進みたいと思います。評価作業マニュアル(案)関係でよろ

しいですね。

● はい、評価作業マニュアル（案）の対応について、資料４－１、４－２にまとめさせていただきます。

○委員長 分かりました。失礼しました。では、これにつきましても、本委員会のワーキンググループで審議の上、意見対応（案）が作成されておりますので、ワーキンググループ主査より御説明をお願いいたします。

○ワーキンググループ主査 それでは、ワーキンググループで策定しました評価作業マニュアルに関する意見募集への対応の案につきまして説明いたします。意見募集の結果、評価作業マニュアルにつきましては、主な論点としていた優れた点や特色ある点、改善を要する点の点数に関する御意見以外にも、判定の流れや基準など様々な御意見をいただいております。審議の結果、評価作業マニュアルを一部修正することとしております。

それでは、具体的な内容につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

● 御説明させていただきます。資料４－１「「評価作業マニュアル」（案）に関する意見対応表（案）」を資料共有させていただきました。先ほどは要領でございまして、この資料につきましては、評価作業マニュアルに関していただきました意見への対応表でございまして、評価作業マニュアルに対していただきました５９件につきまして、対応意見をまとめさせていただきます。

まず、ここも申し訳ございません、５９件全部を御紹介していく時間がございませんので、何件か御説明をさせていただきます。まず、今共有されておりますところでいきますと、No. １、No. ２がいわゆる先ほど御審議いただきました加算に関するところ。加算につきまして１個当たり０.２、０.１となっているけれども、その根拠といいますのは、「評価指標の評価に重きを置いた評価」を実施するということ、特に No. １ですとか。次に No. ３の共有をお願いします。これは減算についての御意見ということで、優れた点、特色ある点の具体的な加算は示されているけど、減算のところは示されていないので明確にという御意見に対して、答えとしましては、先ほど御審議をいただきました、達成が見込まれない内容、全く取り組んでいない内容の２段階ということで答えを書き込ませていただいているところでございます。

次、４頁の資料共有をお願いします。No. １０で、これも先ほど資料２－１で御紹介いたしましたが、マニュアル、要領を作りますのに、同じと思われる内容が記載されておりますけれども、対応状況が少し分かりにくいのではないかとということで。右の回答欄でござ

ございます。この後、具体的に御覧いただきますが、マニュアルの記載を少し修正したような内容もございます。このマニュアルにつきましては、59件のうち、後半部分が少し具体的な御意見が多くございますので、御紹介は今の2点にとどめさせていただきまして、具体には、各法人には、先ほどの繰り返しでございますが、3月の説明会等で追加の御質問があるような場合ですとか、Q & Aにしたための内容を御説明させていただくこととさせていただきますたいと思っております。

資料4-2の共有をお願いします。「「評価作業マニュアル」(修正案)」でございます。18頁の資料共有をお願いします。下のほう、赤文字で2ブロック追記しているところでございます。各項目、㊸から㊼まで記載いただく項目がございますので、それぞれ15頁との対応関係をなるべくお読みいただいて、分かりやすいように追記させていただいているところがございます。

次、20頁の資料共有をお願いします。20頁の一番上の部分です。先ほど減点について2段階で決定いたしましたので、達成が見込まれない場合、0.2点の減点、全く取り組んでいないなどの重大な内容は、1個当たり0.5点の減点というのを明記いたしました。

次、21頁、資料共有をお願いします。先ほど御覧いただいたところでございますが、矢印等がなかなか分かりにくい、今回もそういう御指摘もいただいております、矢印を取り、その代わりに右の欄に各項目(㊸~㊼)のどの項目かというのが分かるように赤い角の丸い四角で記載いたしました。

下のほう、これも先ほど御覧いただいたところでございますが、説明資料で使用いたしましたいわゆる平均点と加点の考え方について、こういう内容であるというところをマニュアルに追記をしたというところがございます。

評価作業マニュアルの修正の主な内容は以上とさせていただきまして、資料5の共有をお願いいたします。

資料5「評価実施要項(改定案)」でございます。昨年度、要項についてはお決めでいただいたところですが、一部修正をさせていただきたいというところでした、目次の2頁、資料共有をお願いします。

目次の2頁、赤字でお示ししております学部・研究科及び研究組織等という表現で、現況分析を実施いたします単位が、教育は主に学部・研究科になろうと思っておりますけれども、研究の現況分析単位が教教分離で、教員組織が教育組織とは独立しているようなところ

ろは、今回、研究組織が主な研究の現況分析単位となると考えておりますので、そういう内容がはっきり見えるように字句の修正をさせていただきたいという内容でございます。

次、10頁、資料共有をお願いします。赤字のところ、「各国立大学法人等の「現況分析結果（原案）」における学部・研究科及び研究組織等の判定（４段階）の平均値を付記します」。達成状況報告書に現況分析の結果をどう反映させるのかという御質問をいただいておりますが、ここは現況分析の案で、結果４段階の平均というのは学部・研究科、例えば教育でございましたら、複数現況分析単位もあるところ、この４段階の評価を平均した上で、達成状況報告書にこの平均点を付記するということに記載をさせていただいているところでございます。

そのほかでございますが、赤字で最初に御説明を申し上げました研究組織というのが現況分析単位に入るという内容について、出てくる箇所を何か所か修正をさせていただいておるところでございます。

事務局からの説明は以上でございます。

○委員長 どうもありがとうございました。 それでは、ただいま御説明いただきました評価作業マニュアルに関する意見対応につきまして、御審議をお願いしたいと思います。事務局からの説明も含めまして、御意見や御質問がありましたらお願いいたします。

○委員長 よろしいでしょうか。特にないようでしたら、進みたいと思います。それでは、原案どおり、評価作業マニュアルに関する意見対応表を確定いたします。また、評価作業マニュアルを修正することいたします。なお、字句修正等を含めまして、今後修正が必要な場合は私に御一任いただきますようによろしくお願いいたします。

## <議事（２）>

○委員長 それでは、今年度のスケジュールにつきまして、事務局から御説明をお願いいたします。

● 御説明させていただきます。資料６を共有をお願いします。「今年度のスケジュール」でございます。既に終了した部分をグレーで塗り潰しておりますので、下の方をお願いします。

本年度、要領とマニュアルを今回の会議で決定いただきましたので、1月22日、この黒枠で囲っておるところ、本日の会議で今年度決定すべき目標としておりました部分は御決定をしていただけたというところでございます。

もう一段、3月のところに、国立大学法人等評価実務担当者説明会ということで、要領やマニュアル、法人向けのQ&Aの説明をさせていただきます。

続いて、【別紙】の共有をお願いします。これも実施要領（案）とさせていただいておるところでございますが、少し下に資料共有をお願いします。昨年度の決定事項の御説明も3月に東京と大阪に会場を設けて実施をさせていただきました。本年度も、大阪が先、東京が後というところがございますが、対面を御希望の方は会場にお越しいただき、ウェブで質問もできるようにさせていただきたいと思っておりますけれども、ウェブで参加の方はウェブで御参加をいただくというハイブリッドの方式で、この日時、場所で開催をさせていただきます。

これについても各法人に御案内をさせていただいて、御疑問があるところ等はこの説明会で御質問もいただきますし、我々からお伝えをさせていただきたいところは十分に伝わるように努力をしていきたいと思っております。

スケジュールに関しての御説明は以上でございます。

○委員長     どうもありがとうございました。スケジュール等については、特にもう確定事項でありますけれども、もし何か御質問がありましたら、どうぞ。よろしいでしょうか。

○委員長     それでは、最後に、法人担当者向けに作成しておりますQ&Aについて、事務局から説明をお願いしたいと思います。

●     このQ&Aも少しだけお時間を頂戴して、こういうものを今考えておるところを御説明させていただきます。

今期の期間の教育研究の状況についての評価に係るQ&Aというところがございます。少し目次を見ていただきますと、現時点で60問強というところ、先ほどの意見募集にいただいた意見をQ&Aでお答えをしますというところを含めまして、やはり御疑問に思われるのだろうかと思うところをなるべく幅広く我々で抜き出しておるところでございます。

一、二問だけ御覧いただきますと、1頁のところを御覧いただきたいのですが、共有をお願いします。

問1-1ですが、中期計画の実施状況の記載欄については、1つの計画ごとに最大2頁、400文字、ちょっとこれは先に変えさせていただいておりますけれども、記載できる内容（事項）について上限はないということでよいかという、恐らく実際にこの帳票を

各法人で作成されるときには御疑問に思うところであろう内容をなるべく先回りしたいというところがございます。答としては、記載できる内容（事項）数については、2頁を超えない範囲で上限はない、事項数に制限はないというようなお答えですとか。

次に No. 2、本文の補足として図表等を使用する場合、必ず別添というお願いをしておりますけれども、ただし1つの中期計画ごとに最大1頁とする。記載できる図表等ということに対して、どういう図表を載せるか、幾つ載せられるかというところも御疑問があるかと思いますので、1頁という分量内であれば上限はない。ただ、視認できるサイズにしていいただきたいというような、要領、マニュアル上にまではちょっとここまで細かくは書かないという内容を、各法人とやり取りするように今後も詰めていきたいと思っております。

お時間をいただきありがとうございました。Q&Aはこういうものであるというところを少し御紹介させていただきました。

以上でございます。

○委員長　　どうもありがとうございました。今、紹介事項でありますので、よろしいかと思いますが、もし何か御意見ありましたら。よろしいでしょうか。

それでは、以上で本日の審議は終了ということになります。もう一度最初のほうから含めて何か御意見等もしございましたら改めてお伺いしますので、どうぞ。よろしいでしょうか。

○委員長　　それでは、今回の議事に関しましては、その他修正が生じた場合には、私に御一任いただきますようによろしくお願いいたします。

本日ワーキンググループの方々や、それから事務局に準備していただきまして、それから本日参加していただいた委員の皆様に厚く御礼申し上げたいと思います。

それでは、本日の会議はこれにて閉会とさせていただきます。長時間にわたりありがとうございました。

—— 了 ——